

夕日寺小学校里山遠足～6年生に思い出に残る遠足を～

団体名●地域スポーツマネジメント研究室／代表者名●西村貴之(人間科学部スポーツ学科准教授)

はじめに

この取り組みは、コロナ禍において学校行事の相次ぐ中止を余儀なくされ、思い出づくりの機会が減ってしまうだけでなく、卒業アルバムの制作にも事欠く状況であった金沢市立夕日寺小学校の6年生に「思い出に残る遠足を」を合言葉に生まれたプロジェクトであった。また、学校から程近くにある、夕日寺自然園周辺の里山を歩くことで、小学生と大学生と一緒に、豊かな自然を体感し、史跡から地元の歴史を学び、ふるさと学習につなげることを目指してきた。主要連携団体は金沢市立夕日寺小学校、夕日寺歴史研究会、夕日寺健民自然園であった。

活動内容

日時：2020年9月29日(火) 8:30～15:30

場所：夕日寺小学校周辺、夕日寺健民自然園

参加：夕日寺小学校6年生53名、教員4名

本学学生33名、地域関係者3名

内容：小学生を12の班に分け、大学生数名を加えたグループを形成し、夕日寺の歴史と自然に関するミッションをクリアしながら約13kmのコースを散策した。グループに1台ずつiPadを配り、道中に設置された、ミッションクリアのヒントが表示されるQRコードを読み取ったり、里山で子ども達が、興味・関心をもって発見したものを写真や動画に撮影した。散策終了後、グループで撮影内容を見ながら振り返りを行った。



散策中の様子



散策中の様子

成果、結果の考察

企画準備段階から当日まで、新型コロナウイルスによって様々な制約を受け続けた。さらに、7月には夕日寺自然園付近で熊が出没、人が襲われる事態となり里山遠足の開催に暗雲が立ち込めた。その中でも、安易に開催を中止とせず、密な情報共有とリスク管理を徹底し、開催にこぎつけることができた。オンラインでの初回打合せから当日まで、23回もの打合せと現地での作業が重ねられた。その過程において、関係者間のネットワークが強化されたことは、本プロジェクトでの社会的効果の1つであった。また、小学生のみならず、大学生も含めた次世代人材が地元の自然や歴史について、楽しみながら「知り」、「興味・関心を持った」ことは、今後の地域活性化を担う人材育成へむかう第一歩となった。さらに、本プロジェクトを卒業研究テーマとし、関係者への調査から効果を検討する学生もあり、アクションリサーチの貴重な実践機会にもなっていた。

多くの関係者の理解と協力によって本プロジェクトが実現できたことに改めて感謝したい。

今後の課題、展望

次年度以降の活動継続に向けて、事業のマニュアル化を関係者間で進めている。事業の継続性を担保していくためには、地域住民の主体的な参加が何よりも重要となる。住民意識調査の実施を通じた地域内の機運醸成なども含め、未来につながる事業としていきたい。



出発式



iPadの事前操作説明